

岐阜県立可児工業高等学校

学校長 片岡 基靖

学校住所 可児市中恵土 2358-1 電話 0574-62-1185

- 1 **会議の名称** 令和元年度可児工業高等学校 学校評議員会 (第1回)
- 2 **会議の構成**

委員	今井 真実 様	元PTA役員
	大杉 守平 様	中恵土自治会連合会会長
	河村 共久 様	下恵土自治連合会会長
	佐合 英巳 様	元PTA役員 (欠席)
	渡辺 英幸 様	可児市立図書館長 (委員名 五十音順)
学校側	片岡 基靖	校長
	各務 友浩	教頭
	新田 雄一	事務長
	水野 茂之	教諭 (教務主任)
	柴田 純孝	教諭 (生徒指導部長)
	加藤 正康	教諭 (特活部長)
	林 貴康	教諭 (進路指導部長)
	河合 英光	教諭 (工業部長)
- 3 **会議の目的** 岐阜県立可児工業高等学校の教育方針・重点及び学校課題を説明し、幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。
- 4 **会議の開催** 令和元年6月14日(金) 9:30~11:30 可児工業高等学校校長室
委員4名、学校側8名、計12名が出席 委員1名欠席
- 5 **会議の概要**
 - (1) 校長あいさつ
 - (2) 「岐阜県立学校の学校評議員の運営について」概要説明
 - (3) 学校の現況と今年度の教育活動について
 - (4) 授業及び施設の見学
授業参観
工業科実習参観
マイコンカーラリー実演
 - (5) 意見交流 (本校教育への提言・意見等)
 - (6) お礼の言葉
- 6 **会議の内容**
 - (1) 授業や学校からの説明などから感想や気づかれた点
委員1：あいかわらす学校全体がきれいで不思議でたまらない。土足なのにいつも感心して歩いている。
委員2：マイコンカーラリーを始めて動くのを見せてもらった。気になるところがいっぱいである。広く地域の方に見てもらえば、興味がある子は好きになるのである。
委員3：学校ですので生徒数が気になる所で、来年度は可茂地区で110名減ということで、女子を入れて就職もあるようですので、学校が進めている女子を多く入学する手立ても大切でよいことではないかと思う。PRをしてほしい。
委員4：遅刻が気になった。元気がないとの話もあり、元気がなく朝起きられなく遅刻

することにつながる。朝から元気があることが遅刻防止につながると思う。遅刻数が増加していることの対処が必要ではないか。

委員 5 : 学校を見せてもらい生徒たちは実習の授業であったので、教室の一斉授業しているときよりも生き生きと喜んでやっていることが非常によかった。

委員 6 : 中学校 3 年生に対して可児工の生徒はこんなに生き生きとして活動している生の姿を見せることで自分も入ってみようという気持ちが起こるのではないか。

委員 7 : 自転車事故が少し多いということで、我が家の近くを通る生徒さんたちを見てみると、スマホを触りながらはいないが、大きな声で話しながら通っていく、夢中になりどこかでぶつかる危険性があるのではないか、そんなことがあって自損事故が多くなっていると考えられる。より一層注意するよう呼びかけをして欲しい。

(2) 意見交流 (本校教育への提言・意見等)

テーマ 1 「人口減少により、中学校卒業予定者数も減少する中で、本校が定員割れをしないようにするための方策について」

委員 1 : 可茂地区が 110 人減とのことですが、中学校卒業生数と高校入学生数とのバランスはどうか絶対的に少ないのか。

教頭 : A 可児市の人口の推移は、2010 年をピークとして下がっていく。2060 年には 2 割少なくなる。

学校基本調査からみても、だんだん下がってくる。本校は、入学定員は分からないが、全県的には定員割れている学校は、地域と連携して検討する会を開いている。可茂地区の中学生が全員可茂地区の高校に入学するとは限らず全県一区なので岐阜地区にもいってしまうので、可茂地区の生徒が来てもらえる魅力のある学校にしていかなければならない。

校長 : 定員減の学校の対象にならないように、5 クラスの規模が維持でき地域の担い手を排出できるように努力してまいります。そのためにも男子校というイメージがつくと男子しか入学しないので、女子の方がいろいろな技能をもって社会で活躍できる場面が多いので工業高校のそのような進路はどうか提案したい。

委員 2 : 1.4 倍の就職倍率があるので、それに答えていかなければならないので可児工については定員を守りたいし、むしろ増やしたいところなので、何らかの方法で定員割れをしない工夫が必要だと思う。

委員 3 : 女性の社会進出があげられている中で、技術を持って社会進出できる工業高校について大きな声でアピールし中学 3 年生の理解してもらうことが大切だと思う。

委員 4 : 初めて見て、やっていることが高度で理解できなかった。工業高校では、こんなことをやっているのだと思った。大会・コンクールのことを新聞等で見たことがあり、実際見せてもらいこれぐらいやらないと新聞に載らないのだと思った。地元でこういった学校があることに誇りを感じいい経験をさせてもらった。

◎お子さんが本校に来たいと決めた時はいつでしょうか？

委員 1 : 自分の足で通学できることと学力で決めた。中学校の就職か進学かを考えた時工業高校を調べたら、推薦で大学もいける選択肢があることから、上の子は入学し、それを見て下の子も決めた。選択肢が多い

委員 2 : おかあさん方のネットワークがすごい。

委員 3 : 子どもは、IT・パソコンに興味がある。母親は、元気で部活動に強いところに興味がある。母親は、スポーツの事もやっていただきたい。可児工は、少し中途半端である。もっと活気があるとよい。

◎学校選びには、親が関係しているか？

委員 1：今は親と子供の考えだと子供の意見に傾く本人の意見を取り入れて進路決定をする。

委員 2：子どもにターゲットを絞ってPRが必要。

委員 3：中学3年生で人生設計・選択は難しい。そのため、高校3年間普通科に通学して自分の意思が決定できる年齢になった時に決定したほうが良いと中学の先生方は思っている。中学校の先生にも説明が必要である。

委員 4：先送りが多いのではないか。

委員 5：決定は、子どもの意見だと思う。親の意見を押し付けないと思う。

●効果的な方法のご意見はありませんか。

委員 1：子どもたちがあいさつしてほしい。好印象になる。見学時に親御さんにあいさつすることがかなり違う。

委員 2：携帯電話でおもしろ動画があると大勢の人が見るように、マイコンカーの動画も見るとは思わないか、そういった発信もやってはどうか。中学生の目を引き付けさせる一つの手かなと思う。いろいろと発信すると中学生がこの学校行ってみたいとなり、母親に行かせてというストーリーができるのではないか。引き付けられることをいろいろなものをアップしていくということ、メディアを利用する手はない。大いに宣伝をやって欲しい。

委員 3：学校は、男女の区別をなく、ものづくりコンテストやマイコンカーなどの大会に参加させて女子にも技術をつけさせることを行い。1人でも多く中学生が入学するようにアピールしてほしい。期待しています。

テーマ2 「ふるさと教育について」

委員 1：可児市の「ふるさと一番」の冊子を見て欲しい。

委員 2：下恵土では、もっと努力してもいいところがあるあればその場面はもっとある。1年間土曜日に講座を開いている。活躍する場がある。内容によっては親と一緒に参加するものもある。高校のPRにもつながるが、生徒と教員の負担が大きくなる。

委員 3：いろいろな地域で出来と思うが、生徒・職員の負担にならないよう地味に長くやれることを実施してほしい。

(3) その他

委員 1:今年度の国際交流について教えて欲しい。

教頭：タイ（バンコック）へ各科1名希望者系4名を8/5から3泊4日で派遣する。KYBタイ工場や現地学校などを訪問する予定です。また、姉妹校であるオーストラリアのクリーブランド地区高校へ希望生徒13名を7/24-7/31に訪問し、5日間のホームステイやオーストラリアの文化体験などのプログラムを予定しています。2つの国際交流については、文化祭で成果体験発表する予定です。